

斐漁書日誌

向以四十三年  
一月元止共濟

特別

14

1919

554



176819

夏魚市口誌

西暦一千九百一十三年一月改



一月元日

大坂の... 魚市... 元日...  
 例と... 改... 但し...  
 此... 候... 候...  
 日... 候... 報...  
 候... 候... 候...  
 候... 候... 候...  
 候... 候... 候...  
 候... 候... 候...



う二の氏淑くひせじく成し伊勢  
攻に掛ると故と云し之勢の如  
夕刻物也、笑者十外しこしく遠  
らと事あり、三浦味多し新也、  
と銘多、高本方らと、  
二個辨め、

二の

攻多故なる、或冒未愈、  
以之是も、度々の全格も、  
侍士の是結と稱し、  
す、石坂毎一を、

原標原製

了るも、  
地名、  
一部、  
早、  
汗、  
所、  
一、

三の

略、  
遠、  
笑、  
到、  
九

海くちみすを縁てくまを成る金一とるる  
 明へてはしりす、前田希の打来流、紙友  
 宗家、功危候生  
 年の易か白羅舞、早稲田アルハム小  
 のお出さぬことしきし、くらしきりせ  
 十一年より一年は多きをかく本年は  
 二の百も接手せむ、このにこそありけ  
 二千一にもこせしけむ

田日

明へてはしり、出さぬ、決し、子朝家をせし

東横原製

八時すの大意り、汽車をも四方舟に持  
 直り、電車で移り十一時十四原に着  
 直り、軒後線あり移り志賀寺山印を  
 合す、片後電車で乗る、とる、初め  
 とも人力機をこけまんは速力のく  
 早しとて、この電車中の定形を  
 意の出し一、ぬ、海に着物、危、枝  
 可、や、と、高田、と、舟、の、ま、の、真、に、る、ま  
 湯河原、津在、中、の、板、及、栗、の、枝、一、高  
 舟、津、夫、の、二、三、十、年、功、あり、ぬ、海、の、氣  
 温、その、さ、の、く、真、し、と、く、と、温、暖  
 其、の、く、風、印、あり、め、く、舟、の、舟、舟

と成り、何れも霞本方よりあるは流のそお  
流す、と取高の所内余の宮に事あり  
痛を奏しておの二十年前の成る此の  
く事うたるはの舊書少語をとりて  
少の端へする具成りし九の別れを  
寝に就く、カ兒才、と終るべきを授け

五

此の世代をわたりて、佛曉起床二三の  
吉兆を奉りて、見る、九のけり、  
あり、其のし出吹けり、と流す、  
所の西洋館に於て、其の家族と洋会

中棧原製

とと七より、及びははゆと流り  
梅色の持行も、書画と高し  
す、流す物二、殊に流すし、  
ち根義入事ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、  
象つと、梅の物、ゆ、ゆ、ゆ、  
この書に、梅、ゆ、ゆ、ゆ、  
此の、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、  
因、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、  
書畫、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、  
ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、  
ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、  
史、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、



余も六推えんは一人也とねたはゆゆ島  
に中時と我に推えんはゆゆ島の邊を  
けをりゆゆ島の邊を推えんと  
の漸進を推えんと推えん

七

時、時をうとくしと遊言あ成と心す朝  
本朝をうとくしと遊言あ成と心す朝  
の清忠記の出す、推移をうとくしと遊言あ成と心す朝  
十から推移をうとくしと遊言あ成と心す朝

東林堂製

送る、たのめをうとくしと遊言あ成と心す朝  
一も高くとくしと遊言あ成と心す朝  
おと書とくしと遊言あ成と心す朝  
去、綿服一とくしと遊言あ成と心す朝  
量とくしと遊言あ成と心す朝  
示す借りとくしと遊言あ成と心す朝  
去る、たのめをうとくしと遊言あ成と心す朝

室用園 静不あ代をのり

八〇

景美、朝霧の白峰を極入るに、清ひ  
九の夕に白と出づ、北極星を三言りて高  
く登りて、舞臺二二三段階をも、扇を  
織成心の衣刺を並を好む、二人自後  
支を喫し十二のる(ゆき)と好く、海路  
こそ田中代おとこが、此のあ村の地  
めしは味ある余の飯海の中りちり  
ある所か、とと女同巻地とをさるる  
此(さ)うらうらと海天しと物く、里川真

中  
景  
美

道、松井平流、兜めボの平信と接あ  
斐通布が、紙を草子し、お入る、後  
逢おと、ぬ、海に、さう、余の、た、心  
直ら、志、

九〇

おね、清あ、ち、と、紅、情、何、あ、は、遠、年、訪、  
余、も、と、進、う、先、は、さ、出、る、に、味、し、十、の、中、  
ふ、熱、海、を、ま、る、國、の、海、に、那、り、急、り、流、  
車、と、行、り、こ、し、一、め、な、り、流、く、利、ん、流、  
る、う、こ、し、入、り、を、件、こ、し、次、キ、の、流、を、  
は、ら、ね、る、め、く、物、も、家、あ、る、人、の、流、



手あし郎一筆の安あはりおらじ十物  
の事なる様あり

十日

小文、雅お三六八才出版印のうらを  
木の田舎をゆのそ骨董を舞い琳瑯  
流に回ちと薄い、英和と見え、おらじ  
ゆも、杉井尉治と見え、鍵宿入りの  
身重積あらしと見え、電をりて

十一日

と清雪降る積りなること、よほと

中  
林  
風  
集

先哲古物の遺書と見え、おらじ  
登校もあをえ、山平山今と見え、  
砂定と見え、一書を記し、白舎中三毛  
原守子と見え、おらじ、四氏おらじ  
社と見え、志士書(墨)を記し、おらじ  
おらじ、おらじ、おらじ、おらじ、  
おらじ、おらじ、おらじ、おらじ、

十二日

おらじ、おらじ、おらじ、おらじ、  
おらじ、おらじ、おらじ、おらじ、  
おらじ、おらじ、おらじ、おらじ、  
おらじ、おらじ、おらじ、おらじ、

新、石浜、西一、島村抱月、以本五流  
馬等、市州ともなり、余の、  
清の、きき、信、  
少の、変更、  
七、  
た、  
千、  
計、  
出、  
七、  
放、

東林堂

ち、  
七、  
と、  
科、  
流

十三

相、  
名、  
員、  
桂、  
一、

を念し四月以後は海島を改訂して  
し法殿の抄念をのみし、又刻して  
大作を清しし出さす。

十考

終る皇天、高木と竹のこもるは  
玉世法もた、前二季に後外  
神の、年収をとし、たす  
是は、年収をとし、たす

十考

初年、留雪積らして三寸  
大地皆白、山

東林堂

法心年、非樂に春を  
を、英中と竹をす  
おいくとす。

十考

と、新田の地、老を  
津の、古と、入平  
川、入る、元、江部  
一、身、上、し、江部  
の、地、を、あ、つ、  
ゆ、子、報、年、地、丁、  
た、教、を、も、る、四、

色々し物のみく高田路の甲斐事あり、  
手料理を器し骨茎と鑑きし深  
史あり

十七

頃、高田の至極あり、清尾属の如く開飲回  
是(影あり)と稱し、毒死又少く、開  
在(二)と物と物と、二甲山あり本出  
路印く来る酒あり高きしつわを  
漱く時打物(イグマ)二條あり集出  
板し、板のぬき印、海あり水二雨下  
出流し、水がを流す、相年或る日の

中  
徳  
原  
製

と物味あり、早く物を温か原事  
ち、物味あり、早く物を温か原事  
柿と物味、まの事、何物、何物  
酒飲を器し、水あり、集出  
す、水あり、水あり、

十八

頃、高田の至極あり、清尾属の如く開飲回  
是(影あり)と稱し、毒死又少く、開  
在(二)と物と物と、二甲山あり本出  
路印く来る酒あり高きしつわを  
漱く時打物(イグマ)二條あり集出  
板し、板のぬき印、海あり水二雨下  
出流し、水がを流す、相年或る日の

甲の未だうらうらと書き大紙と題す

十九日

考成、朝解刑の旨を悉く楷書する一印  
加入を命ず。山崎氏に方印を所望の旨  
本ある。加賀守三三殿の御名を以て、此載  
之語法を以て即ち以て指す事記せしむ  
平段も悉くをえり。若村松平石橋  
毎一十の命す。中一書も取す。松平頼  
壽任の書に授り。

二十日

東  
徳  
真  
書

晴、すまじめ、書集、書あし、意あてを  
せし、すまじ、又、也、命、二、類  
を、終、ま、立、紙、の、河、部、新、主  
の、書、に、接、す、又、解、り、も、終、ま、中  
心、す、中、心、本、功、り、良、其、を  
と、え、り、高、田、屋、新、主、の、高、紙  
講、義、の、本、を、一、し、す、お、さ



書  
成



副、全、紙、一、し、林、二、の、定、例、役、と、今、の、旨  
知、す、る、松、平、又、り、而、あ、り、と

二十日

而、即ち後序を曰く、御兵備出を替は  
たす。其の九二種、御心と付ひ、事う入る  
し、併るに、物を記する。其、縁し物  
早の純ら、山田、信の事、刊の事、  
水二、幼の坭、漸とあり、し、あり、を、  
正命、後、序を、おき、海、新、御、  
輯を、坭、漸と、登、校、古、務、を、  
為、信、し、し、し、し、し、し、し、  
是、千、回、返、り、し、し、し、  
并、部、令、し、し、し、し、し、

二十二の

而、此、御、心、也、也、也、也、  
校、者、也、と、校、者、也、也、  
之、在、坭、漸、と、し、し、し、  
の、重、級、令、と、し、し、し、  
海、新、御、心、也、也、也、  
以、心、し、し、し、し、し、  
海、新、御、心、也、也、也、  
骨、骨、に、校、者、也、也、也、  
し、し、し、し、し、

二十三の

是、天、の、御、心、也、也、也、

刊世の地圖一幅を贈る六巻の  
のりこきりこきり。野村を根き河が  
心集く伴をささる。高田の  
集り代有東治。高田の  
一り物を請ふ。高田の  
て扱ふ。高田の  
瀬原の知ええし。四五月  
を運する。高田の  
高田の山  
大橋と高田の  
の集り。高田の  
高田の  
高田の

東  
集  
高  
田

松子と銀一七二

二十

吹け山武の通。高田の  
高田の  
高田の  
高田の  
高田の  
高田の  
高田の  
高田の  
高田の  
高田の

二十五

好時。不報不呈。男行と結を早稲  
大子附也。日也。お存在地と護り  
受けとる。男未とる。氣  
あり。日也。結を護し。今未方  
骨董と見。英書と云。級を  
て。く。其。印。又。三。印。  
お。塔。元。の。接。又。刻  
と。終。海。と。海。

二十六

杉木。降。雪。積。り。て。す。く。ひ。と  
新。米。の。高。い。度。お。久。い。端。の

東  
横  
屋  
製

寺。高。く。あり。て。他。心。不  
井。方。を。見。て。お。新。米。と。り。  
山。の。形。刊。り。て。來。る。又。心  
道。回。者。は。今。を。元。全。と。推  
考。す。也。除。來。る。今。日。人。口。代  
主。部。と。之。を。あ。ま。や。か。り。の  
少。額。と。し。お。金。其。也。字。の。件。は  
不。決。也。考。を。あ。ま。や。か。り。の。事。は  
中。田。未。方。の。事。は。先。お。し。あ  
す。

二十七





いふ事ならぬ内河をてをて昔の千両付を毎松  
一軒一幸の民友岡田村権水が所を以て  
高安あり郭村荒れ全をて一人あるが  
く卯をて候はれをの如きをて更け各に  
携へ合しよる固きをてせしむるはしを  
とてて、さる高安あ方く卯(道)屋田く  
リ抱へて津途の原並に其の如く一  
いぬの如く、そのを候ふ

三十一

いふ事ならぬ内河をてをて昔の千両付を毎松  
一軒一幸の民友岡田村権水が所を以て  
高安あり郭村荒れ全をて一人あるが  
く卯をて候はれをの如きをて更け各に  
携へ合しよる固きをてせしむるはしを  
とてて、さる高安あ方く卯(道)屋田く  
リ抱へて津途の原並に其の如く一  
いぬの如く、そのを候ふ

と契のの元めは語をてをて昔の千両付を毎松  
一軒一幸の民友岡田村権水が所を以て  
高安あり郭村荒れ全をて一人あるが  
く卯をて候はれをの如きをて更け各に  
携へ合しよる固きをてせしむるはしを  
とてて、さる高安あ方く卯(道)屋田く  
リ抱へて津途の原並に其の如く一  
いぬの如く、そのを候ふ

信の書申快くううあ上るは悦ぶ事ありし今  
衆る物申すもこの世の物人ら、お校  
あるは、お校を推して友の推して  
親由を推して、お校を推して  
うう

三十一日

明、真と氣加ふる、唐の書物を、お校す  
つ、お校す、お校す、又、お校す、お校す  
て、お校す、お校す、お校す、お校す、

東洋原製

〇二月

一日

如明、お校す、お校す、お校す、お校す、  
書を、お校す、お校す、お校す、お校す、  
件、お校す、お校す、お校す、お校す、  
お校す、お校す、お校す、お校す、  
お校す、お校す、お校す、お校す、  
お校す、お校す、お校す、お校す、  
お校す、お校す、お校す、お校す、

二日

明、お校す、お校す、お校す、お校す、  
お校す、お校す、お校す、お校す、  
お校す、お校す、お校す、お校す、  
お校す、お校す、お校す、お校す、

訪ふ事ありしころを依拠して去る、因  
ち能く伝へたる所の行ふ事ありし事あり、  
下村よりし能くしりし海ありし先あり、  
ありし事ありし事ありし事あり、  
四ノ子山の上へ移りて同書録帳を  
撰る事ありし事あり、  
付一二冊も御法しし事ありし事あり、  
散す、トレスンヤカ利の事ありし事あり、  
二接する、河部義興の書と接する

三日

晴、房の事ありし事あり、  
唯の事ありし事あり、

茶入を購ふ、その報に名枯の中在り、  
行と其の、物なりし事あり、  
解をゆくりし事あり、  
古蹟ありし事あり、  
参拝す中ありし事あり、  
三三の事ありし事あり、  
す、その事ありし事あり、

四日

晴、山の事ありし事あり、  
行行也とありし事あり、  
会してありし事あり、

子ゆらした付るは遠近すをのみ、協由義  
一其本物のこちとぬす、漢書と四  
二記神すゝ付る也後書と云す  
其四國考全編に加入するは秋月友邦夫  
民語考と出し、其書心と書すと、晩年  
其書を記すは九采有草子且と云  
を猶心、其先と云す、其のゆゑ

子

此高橋義彦と云す、其書あり、此刻に即  
是教則と云ふ、よりの家名及所居  
と云ふ、其書編と出出し、其

東洋書院

故を教則と云ふ、其書あり、此刻に即  
是教則と云ふ、よりの家名及所居  
と云ふ、其書編と出出し、其

子

此高橋義彦と云す、其書あり、此刻に即  
是教則と云ふ、よりの家名及所居  
と云ふ、其書編と出出し、其

滋の美大印を獲く事あるらんを松平  
任に物せんを正色と標せしもの也其  
印を信に物する其為の海軍高  
永志司を石木其何に海軍の付  
多人を在御人の中しを物する、高松教  
彦直其信に物する、其を授する、  
高松方と物する其信の表紙と物する  
書信を信に物する其信の表紙と物する  
信を信に物する其信の表紙と物する  
其信の表紙と物する其信の表紙と物する  
其信の表紙と物する其信の表紙と物する

海軍高松

七〇

此、栗林の事なり、二月廿三日迄は、  
子と物する、生次郎、其信の表紙と物する  
子、不崎の事なり、其信の表紙と物する  
創成社の定式書、其信の表紙と物する  
其信の表紙と物する、其信の表紙と物する  
其信の表紙と物する、其信の表紙と物する  
其信の表紙と物する、其信の表紙と物する  
其信の表紙と物する、其信の表紙と物する  
其信の表紙と物する、其信の表紙と物する  
其信の表紙と物する、其信の表紙と物する

八〇







高しき事、本之程地縁師と申すの凡  
種勝を本と看、相うく、恒のりす  
一身上しくりと云ふして云ふ

十二の

明江部海よりし年古ありし、高西を  
相與仲の程海舟の観音船也  
くしと云ふ、元々、海舟又ゆりす事、  
程舟の用古程、程舟と云ふ、  
云うして云ふ、古舟と云ふ、  
示す、桂洲和、明と云ふ、  
程舟と云ふ、  
程舟と云ふ、

東洋風

そとあり、名を云の地、  
程舟、  
と云ふ、  
程舟、  
程舟、  
程舟、

十三の

口程、  
生伊原台、  
余の程、  
高、  
可し、  
刻印也

十号

の所、房の全移を、南書堂並、離屋、  
七、海、の、二、の、中、を、移、る、之、方、政、令、に、件、并、に、  
全、し、件、を、根、拠、す、平、政、理、工、件、官、氣、  
様、捕、工、場、新、築、あり、入、札、と、所、小、為、三、号、  
を、あ、ま、二、三、の、事、と、ま、し、し、ゆ、も、馬、瀬、  
寺、物、の、計、に、接、す、河、部、氣、魁、子、七、年、功、  
安、の、寺、を、移、す、事、也、

十号

取、引、の、所、へ、下、村、に、移、す、一、本、流、北、津、新、  
橋、に、加、築、に、あ、る、と、材、料、に、流、流、を、

常、池、を、し、む、坂、に、五、号、甲、を、流、池、に、引、  
あ、る、流、す、り、ぬ、い、を、具、す、り、し、ゆ、の、大、丸、  
美、の、勝、庵、に、あ、る、り、川、あ、も、(、張、石、) )  
曰、元、記、長、年、に、東、御、易、武、と、服、持、を、  
流、池、に、し、件、を、根、拠、し、流、流、を、引、  
大、二、川、と、流、池、方、に、あ、る、り、刊、り、金、の、新、  
部、金、に、流、池、の、内、に、あ、る、り、に、林、早、の、  
が、あ、る、り、下、村、居、り、(、事、居、り、し、ゆ、も、) )  
本、流、池、馬、の、本、流、池、に、接、す、事、也、

十号

時、田中義成の書、梅子、廣力、主、松  
事、一、由、の、為、物、を、示、す、由、中、由、印  
ニ、し、し、あ、れ、れ、活、活、の、長、岡、一、軸、と、然、  
る、由、中、由、一、三、を、あ、れ、れ、活、活、を、  
見、る、余、の、土、地、に、在、る、一、間、し、以、ら、し、出、を  
二、封、し、活、活、義、一、を、流、代、と、し、と、え、ん、土  
地、を、梅、子、と、し、登、地、を、死、七、活、活、を、  
活、活、と、し、一、年、り、を、と、る、と、し、  
余、の、と、り、く、然、る、書、り、出、生、を、く、活、活、  
書、を、交、付、せ、り、梅、子、一、間、二、間、取、り、  
是、本、大、活、二、書、の、と、り、に、然、る、と、し、  
之、を、和、田、人、の、見、見、し、し、と、し、  
東、林、原、

おんをともく

十七

雨、故、入、半、に、来、る、と、打、正、と、り、服、活、活、  
列、之、保、之、活、活、と、り、活、活、の、付、来、活、活、  
正、と、り、大、活、活、と、示、す、林、活、活、  
と、り、活、活、の、書、活、活、活、活、を、然、る、  
登、活、活、活、活、と、示、す、活、活、活、活、と、示、す、  
と、り、活、活、の、文、活、活、と、示、す、活、活、活、活、  
と、り、活、活、の、書、活、活、と、示、す、活、活、活、活、  
活、活、活、活、と、示、す、活、活、活、活、



多氣二師才毒成神社御出の大火あり  
リとの命けりし結火。大塚彦次(高利  
三年)の事あり。新町の石高後三樂子  
八心獅子の事あり。と云ふことあり。其  
珠子也。古の事あり。又いふ事あり。  
林守(中)と云ふ。徳吉家。舊名。此代  
切を修り。文け大丸。と云ふ。用。文  
けり。廣井一の古。と云ふ。高木と云ふ。  
骨。其重と云ふ。りん。木。か。年。一。と云ふ。  
之。大丸。と云ふ。薬。と云ふ。を。修。り。開。通。  
ゆ。と云ふ。其。文。を。出。取。り。海。列。会。の。事。と云ふ。其。し。云  
ふ。の。事。一。紙。巻。一。口。あり。

中素直

念一。

明。河。部。親。善。を。先。河。部。道。正。本。の。事。と云ふ。  
岡の甚。漢。と云ふ。ゆ。か。る。意。と云ふ。此。の。漢。  
く。況。の。事。を。知。す。事。の。事。を。知。す。  
此。の。事。を。知。す。出。取。り。利。の。事。と云ふ。  
北。極。の。事。の。事。を。知。す。其。の。事。を。知。す。  
と云ふ。事。を。知。す。此。の。事。を。知。す。其。の。事。を。知。す。  
此。の。事。を。知。す。其。の。事。を。知。す。其。の。事。を。知。す。  
此。の。事。を。知。す。其。の。事。を。知。す。其。の。事。を。知。す。  
此。の。事。を。知。す。其。の。事。を。知。す。其。の。事。を。知。す。  
此。の。事。を。知。す。其。の。事。を。知。す。其。の。事。を。知。す。  
此。の。事。を。知。す。其。の。事。を。知。す。其。の。事。を。知。す。

の日記中未だ於木木村田四(泰永)寺と偕  
生園之舎し於人梅重十七年七月、新  
計畫と地敷を、而て市平寺本娘  
事

念二の

町内御事印二、の所より、  
三上(返印)、石原の寺修、  
印列舎此の重後舎に修す、  
す、林の邸の事、ち梅馬坂の寺に  
接す。

念三の

町内御事印三、木村カ塔並、  
有之、の海あり、  
唐沙多号、  
清心元、  
遺者、  
おす、  
了、  
訪ひ又、  
由命、

念阿り

明、早朝、唐海ニこりて、  
校、白佛を疏る、加賀寺ニ、  
昔、八生、版印、神牛、  
とて、  
紋、

念阿り

明、寺本、  
末、

印と云、  
佛、  
寺、  
校、  
見、  
と、  
以、





一とる倭文子遊神の二書出来。直つ終社  
次りく謝状をのりし、不毛をやり。巻心  
畫を種あてて来る。松平信の昔々。松平  
おろし今松山新云来る

井

明、信、善、石、半、道、来る。下村、信、三、郎、助  
装、海、列、の、傳、信、本、流、和、多、志、母、(、事、の、  
母、)死、云、の、電、信、来る。一、世、目、流、を、  
助、信、の、用、人、と、なる。時、危、馬、の、状、起  
り、歸、り、し、家、去、り、し、田、收、と、得、る、こ、の、  
終、る、起、つ、此、を、帝、傳、し、也、り、年

東橋原

八十四歳、望、松、寺、海、と、る、大、浪、信、も、  
月、考、南、民、淡、本、上、梓、指、右、後、の、お、事、ゆ、  
来る。孝、の、事、を、信、と、多、信、信、の、先、  
寺、物、(、五、)と、高、の、木、と、功、を、一、西、り、行、脚  
の、上、後、(、白、檀、丸、)に、信、流、年、の、物、志、の、  
三、つ、三、信、と、海、を、信、と、る

○三月

一日

頃、梅ヶ原の烈風ありて、中ニ致利の  
会の出物中一回、右西諸義人、其の  
書、ちり紙布、又、右の、其、文、を、  
一、其、を、終、り、す、山、向、所、の、事、を、  
其、母、死、す、其、葬、式、有、り、の、由、に、至、二、十、四、日、  
送、り、大、丸、を、送、り、贈、社、心、意、を、示、す、と、  
大、隈、伯、七、才、の、所、を、示、す、  
枝、事、を、之、を、親、友、國、中、の、武、が、大、  
二、三、日、後、ユール、ド、ブラッド、本、の、子、が、  
一、も、う、中、に、息、子、を、生、む、と、ハ、ム、シ、ッ

東洋文庫

の、洲、渡、を、あ、る、大、隈、伯、七、才、の、所、を、  
二、情、願、す、其、氣、勢、を、示、す、  
ふ、上、の、物、を、贈、り、す、大、隈、の、  
有、出、物、中、一、回、右、西、諸、義、人、の、  
其、母、不、幸、と、有、り、其、葬、式、の、由、に、  
送、り、大、丸、を、送、り、贈、社、心、意、を、  
報、じ、す、又、其、母、の、葬、式、の、由、に、

二〇

頃、山、向、所、三、才、の、所、を、示、す、  
其、母、と、有、り、其、葬、式、の、由、に、  
二、十、四、日、拂、入、り、大、隈、伯、七、才、の、

晩飯をたのむ、すしをたのむと離れ  
をたのむ、私田著書「伊太利」の  
後をたのむ、二十分の急行汽車  
の、大坂に向け出る、換乘の四の  
村にたどり、見送りの車、先刻東京  
より来たもの、折返り、出陣し、  
大坂海軍少佐、乗る、東京、  
都府、結果を報告、二葉田の  
出生を流し、汽車中、保身、  
也、度々、三三、吉村、織、  
復々、車、一睡、京都、  
眠、元、お、ある、忠、一、出、  
車、忘

入、流、し、ある、ハ、  
受、た、り、の、二、三、の、  
花、尾、に、換、す

三の

明、校、友、文、の、  
田、方、の、基、き、  
決、し、中、橋、  
田、中、隆、三、  
三、の、あ、ま、  
と、流、れ、  
を、把、し、

之の多 檜田の云のおをともふる 堺郊は  
神戸 豪家の寺画 長三 念ふありし 松の  
ぬを 別り 見ふ、 車宗、 二三の 節古を ぬふ  
東 松より 入るし 高山 圭三 本流 漢文を  
活論し ともふ、 ちり 此地 麻あるし 事と 氣  
東 ちり ともふ

四日

所 相事 河内 烈しく 寒氣 滿也 神は 命  
ふと 石橋を ちり、 ちり ちり ちり ちり ちり  
村山 北平 松木 馬屋也 ちり ちり ちり ちり  
神は ちり ちり 内地を 孫の、 神の ちり ちり

本 孫、 河内、 相事、 河内、 烈しく 寒氣 滿也 神は 命  
田 浩久の 本、 古、 ちり、 ちり、 ちり、 ちり、 ちり、  
山 ちり ちり ちり ちり ちり ちり ちり ちり  
北 又 大火 ちり ちり ちり ちり ちり ちり ちり  
こ ちり ちり ちり ちり ちり ちり ちり ちり  
と ちり ちり ちり ちり ちり ちり ちり ちり  
福 田 ちり ちり ちり ちり ちり ちり ちり ちり  
書 ちり ちり ちり ちり ちり ちり ちり ちり  
ちり ちり ちり ちり ちり ちり ちり ちり  
ちり 田 ちり ちり ちり ちり ちり ちり ちり  
と ちり ちり ちり ちり ちり ちり ちり ちり

一昨午の月あるおやうに集る氣あり  
あしく神代布を裁しと氣も氣の力  
結んぬ家伝う結う扱うしとて後西  
川のまを物を撮りし結えうきこみ  
し結うまき、刊のまきし祝ひ者長  
印通美ししまき、まきなる前通軍  
に結なる為に結う結う、朝来江  
田桂道山之玄洞と西井三印と功の  
結なる、結なるも左也志三を結  
入功の結なる結を結う、又の結  
に結なる西尾まきと村幸男と結う

東洋風

まは雪風を冒しと河部産を印秋山  
儀印結村人を功の結ひと結う  
不在、結ひぬ西尾ま功う結ひぬ  
のまを結う結う山本知士ま結ひぬ  
結ひぬ、結ひぬま功う結ひぬ  
結ひぬ、結ひぬま功う結ひぬ

朝も雪風を冒し、口唱、氣分ぬく  
回復する早起者現と結ひぬ、又二  
こまの次男結ひぬ、結ひぬ、又英を  
こちと結ひぬ、結ひぬ、結ひぬ

又中橋徳重(り)と天王寺の(り)と功  
と疏(り)十二の(り)と、(り)と(り)と(り)と(り)と  
お(り)と(り)と(り)と、(り)と(り)と(り)と(り)と  
北(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と  
の(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と  
み(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と  
元(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と  
(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と  
(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と  
版(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と  
刊(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と  
を(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と

神皇正統記

高(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と  
(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と  
七(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と  
幕(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と  
十(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と  
一(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と

七〇

明(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と  
三(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と  
み(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と  
渡(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と  
又(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と  
北(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と(り)と



即ち此表本第幾と此二数由忠ゆりしヤ川  
平助高八兵衛平一即村徳七、梅原徳  
七故に彦三郎(妻高七)中村秀吉  
海江之平兵衛其うらと多くと株式の  
妻高七也此内出金即流のしもの高八兵衛  
平千太郎の御村徳七千田の二也株式  
式の御流を流るも哉内作平一を流る也  
あふゆり大株其高八とゆい又換る  
山本平一とゆい流る也切也  
海江之平兵衛其うらと多くと株式の  
妻高七也此内出金即流のしもの高八兵衛  
平千太郎の御村徳七千田の二也株式  
式の御流を流るも哉内作平一を流る也  
あふゆり大株其高八とゆい又換る  
山本平一とゆい流る也切也

海江之平

川口正平 奥高七とゆい流る也保正  
流也本流  
九  
日吉六、高八兵衛、朝木徳勝を流る也  
百高四、高八兵衛、高八兵衛を流る也  
を流る也、西村、高八兵衛、高八兵衛を  
南に流る、高八兵衛、高八兵衛を流る也  
あふ流る、高八兵衛、高八兵衛を流る也  
の根流を流る、高八兵衛、高八兵衛を流る也  
即ち尾流左妻つ木林下流る也高八兵衛  
井上貞次郎、高八兵衛、高八兵衛を流る也



印津大防其方道水田の地其山又在  
表井跡沙印と磨跡し高き岩  
阿多印子、高橋義彦の古跡を  
京者ともし跡をさし事ある山尾の印  
と云ふる 直に云ふ、高木弘道守  
宅跡を新ちりども、事改む  
又砂山飛渡の古に橋あり、事改む  
一由の人と云ふる、五十餘年  
た古し、わづらひ、高木三並木是方  
印等ありあり、末の十の程に  
く

東林風説

十

雪拵、と云ふ、向村山、石下岩、下流、  
取村平右、右、本山、一、を、跡、の、余、と、三、  
扱、の、保、子、跡、也、と、跡、の、向、村、と、橋、の、  
三、支、支、店、の、建、築、跡、の、跡、と、事、跡、  
奇、跡、の、跡、ある、中、築、模、型、と、見、又、保  
己、の、跡、の、跡、と、工、の、跡、と、云、ふ、  
土、竹、甚、回、く、廻、り、経、切、の、跡、の、跡、と、  
く、く、く、く、く、く、の、跡、の、跡、の、跡、  
と、云、ふ、の、跡、の、跡、の、跡、の、跡、  
事、跡、の、跡、の、跡、の、跡、の、跡、  
事、跡、の、跡、の、跡、の、跡、の、跡、



畫をえりて獲るも年しと和方のハ  
時三十分の隙をまてゆ金(る)つゝ  
其本をえりて附はつた方の隙に  
うそちゆふくも印に(る)つた  
の者協を托す(二十四年)中橋松  
五印か入江本(う)者こ接す、伊庭り  
到る廿の隙に二印集を托す、又中  
橋(う)空り出る名印印の分と  
又、其まよくは又(る)符々の者  
を、児城の古訓、和方本あるは  
都(る)橋を校反井に照文と湯淺ま  
以ま、又十井寺所は、路(る)西村

兵衛方(る)と扇取(る)片本目臨引  
眠(る)前を辨以福(る)王嘉(る)と  
まを托(る)代(る)世(る)お(る)も  
お(る)偏(る)と和方(る)本(る)を  
り

十二

時、和方の(る)隙(る)と(る)接(る)統(る)差(る)と(る)  
し、(る)本(る)を(る)印(る)に(る)山(る)田(る)印(る)の(る)者(る)  
朝(る)来(る)替(る)印(る)を(る)托(る)印(る)刷(る)名(る)漢(る)の(る)布(る)  
の(る)を(る)見(る)ま(る)の(る)流(る)河(る)中(る)橋(る)河(る)田(る)少(る)村(る)山(る)  
砂(る)川(る)の(る)本(る)山(る)に(る)印(る)打(る)高(る)人(る)海(る)を(る)お(る)く





十号

カ南、栗山折之也、等の本号に接する、不  
し、その出流、ゆゑに、中河部産を  
所、出流と流るゝ流るゝ、秋山儀、中河  
る、次、寺井、采、中河部、あ、わ、り、  
甚、を、ゆ、ふ、を、ゆ、ふ、中、河、部、中、河、部、  
五、月、上、旬、方、現、任、京、政、流、起、し、る、決、定、  
の、政、務、を、ゆ、ふ、出、流、ゆ、ふ、山、折、儀、を  
集、え、る、部、制、は、美、術、を、ゆ、ふ、  
所、出、流、を、ゆ、ふ、中、河、部、中、河、部、  
大、丸、美、術、底、り、ゆ、ふ、流、し、り、付、三、井、物、を  
：お、り、ゆ、ふ、ゆ、ふ、ゆ、ふ、ゆ、ふ、片、子、を

甲標原製

神を流るゝも、角、回、節、一、り、も、大、政、每  
中、河、部、ゆ、ふ、ゆ、ふ、ゆ、ふ、ゆ、ふ、ゆ、ふ、  
ゆ、ふ、ゆ、ふ、ゆ、ふ、ゆ、ふ、ゆ、ふ、ゆ、ふ、  
ゆ、ふ、ゆ、ふ、ゆ、ふ、ゆ、ふ、ゆ、ふ、ゆ、ふ、  
早、稲、田、子、を、ゆ、ふ、細、書、を、ゆ、ふ、中、河、部、  
者、：接、す、ゆ、ふ、ゆ、ふ、ゆ、ふ、ゆ、ふ、ゆ、ふ、  
流、入、初、儀、の、状、況、を、報、し、来、る、。

十一号

ゆ、ふ、ゆ、ふ、ゆ、ふ、ゆ、ふ、ゆ、ふ、ゆ、ふ、  
ゆ、ふ、ゆ、ふ、ゆ、ふ、ゆ、ふ、ゆ、ふ、ゆ、ふ、  
ゆ、ふ、ゆ、ふ、ゆ、ふ、ゆ、ふ、ゆ、ふ、ゆ、ふ、  
ゆ、ふ、ゆ、ふ、ゆ、ふ、ゆ、ふ、ゆ、ふ、ゆ、ふ、  
秋、山、儀、ゆ、ふ、ゆ、ふ、ゆ、ふ、ゆ、ふ、ゆ、ふ、



日ウ、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

十のり

朝の物をもつた者、家人傳を傳へて、  
一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

十のり

朝、或、月、ま、人、金、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

東林堂

日比の村、村平、山田、か、お、文、と、年、流、を、  
振、こ、た、し、身、本、店、を、流、の、日、月、星、四、五、  
上、と、流、の、あ、つ、も、是、を、と、流、の、一、番、舞、  
て、今、を、お、身、本、と、再、流、を、流、の、川、上、  
流、一、り、の、寺、と、振、ま、あ、つ、も、舞、  
横、流、大、火、の、報、あ、つ、も、女、田、電、所、  
す、と、報、あ、つ、も、汗、或、月、流、の、流、

二十のり

昨日、日、入、準、と、ま、か、賀、寺、三、を、  
き、流、味、作、と、あ、つ、も、あ、つ、も、  
板、の、五、流、と、あ、つ、も、あ、つ、も、



一、おのれを、高木とゆふ、同くも、天王  
代の古銅器と獲、大香炉とカキの  
キ、このころ東大寺、天平、徳政、土尼  
十月日の刻字あり、燈籠、寺の  
ふ、まゝ又、貴、重、と、切、り、す、  
的、筋、元、と、ゆ、ふ、  
り、妙、し、との、家、名、  
年、一、初、又、す、  
美、ま、  
地、あ、  
す

東橋原製

吹、風、を、ま、り、と、重、  
そ、  
か、  
不、  
と、  
中、  
執、  
三、  
と、  
味、  
、  
本、  
昭、







主三事流俗を思ふにあり

二十卷 日記

由と能ハぬと其方の流俗ありと云ふ為ゆへに  
其と京都を極く少り息の事ありの修補を  
授んとし其田を六二印と記すの力也其  
田のその事不分明なるめ開倉のめを納  
するは況に家にあらずと記すも少りと  
其の由を湖南を流るを其の流俗を  
流るの事と毎流流する事ありと由  
ありと記すに似し、再び由ありと  
記すに田舎の鑑賞のめを納し又別

漢書

辭して其の中を流るを流るのめを納し又別  
つて大流るに似し、其の流俗を  
其の中を流るに似し、又家に并に  
田中と市兵衛の事と接す

二十八

明、其の中を流るの事ありと云ふ、東  
儀儀ありと記す、其の流俗を  
三才の事と接す、其の流俗を  
と記す、其の流俗を  
其の流俗を  
其の流俗を

詠ふ、牧、高山、平田、武内、等、あがの、枝、  
を、歴、節、を、切、り、つ、り、あ、る、そ、の、去、り、状、況、を  
報、告、せ、り、又、刻、々、と、包、名、に、各、所、を、記  
考、を、お、き、出、版、部、に、其、事、の、明、瞭、を、あ  
す、牧、(朝、日) 相、原、権、三、角、田、部、(毎日)  
市、権、柳、の、(大、崎、新、報) 山、田、芳、彦、(大、崎  
の、朝、日) 十、平、倉、の、(大、崎、新、報) 外、出、寸  
判、口、の、上、野、理、一、十、平、倉、の、あ、り、し、

二十七日

而、家、代、に、後、子、繁、る、由、直、次、上、京、し、今、を  
報、告、せ、り、下、村、三、平、一、と、い、ふ、色、行、を、し、

徳島県

中、の、名、を、兵、衛、高、木、の、者、に、換、り、上  
野、理、一、を、幼、少、村、山、上、野、理、一、と、い、ふ、平、田、の、  
宗、出、の、中、(入、り) 中、原、を、大、王、寺、に、  
し、り、と、い、ふ、事、を、善、行、集、の、件、に、記、載、す、  
し、り、と、い、ふ、事、を、茶、茶、千、三、郎、と、い、ふ、一、  
冊、に、記、載、す、  
骨、子、を、し、り、と、い、ふ、事、を、大、王、寺、に、  
し、り、と、い、ふ、事、を、豊、田、山、子、と、い、ふ、  
件、に、記、載、す、  
し、り、と、い、ふ、事、を、文、海、と、い、ふ、  
件、に、記、載、す、  
し、り、と、い、ふ、事、を、平、田、と、い、ふ、  
件、に、記、載、す、







○四月一日

一〇

時、京郊より来るものあり、官に就くるとして  
 の事味あり、朝に於て命に於て言ひ申すは  
 石巻に掛りし者あり、其言を聞き、其言の  
 母印を辨め、あり、京郊より来るものあり、  
 掛りし由、内田(地名)に申す、其言の  
 同人を訪ひ、其の言を聞き、其言の  
 なる、史書の言、其言を聞き、文科の  
 あり、其言を聞き、其言を聞き、其言の  
 書をば、其言を聞き、其言を聞き、其言の  
 あり、其言を聞き、其言を聞き、其言の

中

入りし、其言を聞き、其言を聞き、其言の  
 夕刻、其言を聞き、其言を聞き、其言の  
 正なり、其言を聞き、其言を聞き、其言の  
 在り、其言を聞き、其言を聞き、其言の  
 あり、其言を聞き、其言を聞き、其言の  
 あり、其言を聞き、其言を聞き、其言の  
 あり、其言を聞き、其言を聞き、其言の  
 あり、其言を聞き、其言を聞き、其言の

二〇

あり、其言を聞き、其言を聞き、其言の  
 あり、其言を聞き、其言を聞き、其言の  
 あり、其言を聞き、其言を聞き、其言の

仁ゆと節の不在、夢のあらしし、雪後も  
森下塔を千由寄附し、るに知とさうく  
海田方家、唐の海と路の節より、推考  
あり、と西の者とぬり、前時を、  
生る信陰を千葉の白鷺の家の  
状をりし、轉じて、事、行お宗八の  
者、接する、下村、  
さぎ、と、  
佛のありし、購入し、大節、洗、  
に、  
夢のありし、  
と報り、並木、

東林山院

托す、

三〇

昨日、唯、  
山、  
片、  
と、  
加、  
松、  
削、  
大、



を扱ふ事又高向を中し書と書

五

明、原庄千と云はるる山彦等、  
記一書、以珠主の如く、  
別を述ぶる如く、  
世一見、  
三に、  
閑田忠次、  
日比曾、  
きと云、

神橋原

千と云はるる山彦等、  
記一書、以珠主の如く、  
別を述ぶる如く、  
世一見、  
三に、  
閑田忠次、  
日比曾、  
きと云、

六

明、由ふ事と接する事、  
流る、



修徳の心社振上の扱を乞ふ。例合を以てし  
出處あり、

六〇

昨、不刊の事ある。日付、戸田七、木福  
松三、千代を、素原の林、吉吉を、歴、河  
し、三、時、素原、を、向、し、と、勸、導、を、為、す、  
と、お、り、ぬ、此、の、事、を、而、已、後、不、功、を、説  
す、勸、導、の、心、を、以、り、以、り、以、り、以、り、以、り、以、り、  
の、心、の、こ、ち、を、も、た、り、す、す、す、す、す、す、  
軟、汽、を、も、た、り、す、未、成、の、電、氣、を、取、り、り、り、り、  
が、不、倒、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、

東林堂製

の、事、を、以、り、以、り、以、り、以、り、以、り、

九〇

雨、と、乾、の、事、を、以、り、以、り、以、り、以、り、以、り、  
す、す、す、す、す、す、す、す、す、す、す、す、  
報、あ、り、し、お、合、い、を、以、り、以、り、以、り、以、り、  
し、禁、あ、り、し、人、の、功、を、以、り、以、り、以、り、以、り、  
京、都、に、あ、り、し、す、す、す、す、す、す、す、す、  
と、い、ふ、こ、と、を、以、り、以、り、以、り、以、り、以、り、  
得、七、林、の、事、を、以、り、以、り、以、り、以、り、以、り、  
こ、の、事、を、以、り、以、り、以、り、以、り、以、り、  
の、扱、を、以、り、以、り、以、り、以、り、以、り、

来るを待たず、深更に山に三つ火を  
時を待たず

十口

明日の曜、字印とありて、行状宗八等  
安んずるを待たず、さきの付録の如く七  
ありて、平高は源房（号術捷捕）を  
（生高）素田茂を功名に、生高を伴  
を改す、さきの如く、同日、山林者元  
二回書と親、才七回書、素田茂等、  
は古美街合と、冬親し、晩に、山の大  
政に、山、新記三、山師道印を

神機原製

燃え、此其車流、印田中唯一、山崎  
垣、林道、他、勢、河、直流、原、素、  
伯、林、方、の、素、友、伊、志、正、才、も、素、友、  
河、も、此、和、石、代、の、為、度、ん、を、子、く、獲、に、就  
く

十口

西、池、中、池、一、本、流、池、め、ら、し、敷、る、の、御  
え、う、き、り、来、り、ち、あ、ら、し、し、出、す、新、山、印  
漢、志、林、道、に、素、友、も、あ、ら、し、る、及、宗、八、  
と、梅、田、堂、流、の、者、物、見、せ、る、者、り、大、  
と、者、を、待、た、ず、行、状、宗、八、と、者、を、待、た、ず、

南行不：昔あると邦を尋ね集上の折を  
とるす物取らむを得ん致味話昔  
の存好を心り加賀寺三二に投す高山大  
崎下村伴三事跡長崎万話七去  
高田山崎(在京都)しん 電報主  
日事政のちるは後ある、山崎恒四  
郎おろす事たすとる。

十二日

晴、と能登安事山崎坂甲しと  
成り山崎ちるしん 已後不、出勤、紫  
あ同伴村田又兵衛 森久兵衛伊藤亮

東橋原製

十中八木新松中井一馬を歴訪す  
この長安都しと着、お赤茶心四  
一中路の我一行村宗ハ英中事  
来者あり、しん 登りて長安と其こ  
高井説三中村伊しん 已後子代  
森王純秋山儀あり、平田徳新を歴  
訪す、大坂朝の岡田茂松道松  
の伴しん 本流替り仲るを説き、子  
校賢の推るしん 回しん 貞友仲  
直しん 昔をいふ大隈氏事  
改しん 之と集あしん 刻を定  
む、か川間を事訪四十五日訪方京



都の毒の茂る在車座の下打正を  
者と収る世に大隈廣徳の割の  
に潤す、と和池の池一帯あり  
此寺より大里を有海合社工場  
店に振臥母の長と世に伝承あり

十三日

昨早朝雪あり東より吹雪あり  
世に戸田從七岩田熱三より豊田守在二  
門の木此三より陸田新六衛揚井佐兵  
衛寺田甚其茂あり宗助山田五兵  
衛を歴訪あり戸田あり其の居不在

東林原製

戸田千田決る、天王寺公園内の於寺  
に於けるより中尾徳三より瀬尾喜兵  
衛、沼田杜造加賀友恒忠を訪ふし  
ゆり、大谷より大谷次房(依是寺刺  
屋より)寺田成次房の斗者二接あり  
和田素更より和の報とあり也とあり  
大谷に冬元の一采山と者もぬり、又美  
和の寺を興あり、森田初光田を興あり  
しとあり、砂河初光来り大隈  
初光の寺に和の報とあり、其の寺あり  
井智三より其木是とあり、其の寺あり  
即ちあり

寺田甚業氏河合為吉を以て其  
 多きとすを流し去るに堺市にあり市  
 役不之由後を功を市内の物産を以  
 油ぐ一カ棟にあり納し宅徳平を以  
 以雪を有しと古ゆくゆ了る度海二三  
 印を功を以てする、有宏平甚業氏又次  
 印田中唯下りか甚業心よりし十甲  
 何う四民法本二十冊なりしと別を  
 小紙五三の昔に接する、川と公平を以  
 き株式方面の善集を振議す、

原稿複製

明と其六の昔も海をく分け出さる、其の  
 並本朝の昔も海を、信平の報告に接す  
 宅徳平を以ての在才智ありありと功  
 小一十日有海あり、山田安民ありあり  
 を以ての在也、高船あり、山つらと功を  
 不立、お出す、移山儀あり、十甲功、和  
 業、天田中唯下り、の昔に接あり、核  
 其寺らるし、中を以て、大隈  
 出たの刻に、台増田を以て、し、十甲  
 何う、り、其、閑を以て、其、味、活、其、

事始と必ふ、中務徳上りとも末状  
ありしに、是ふ、世の事始と世權を  
之の自清定を執り、連り、睡此を  
之を夜を古しく、暗る、其、所

十一

時、多敷大株、昔よりと、物あり、在、高徳  
尼を始と、而り、大京七千と、物あり、支死  
人、之より、千の奇、附法あり、田中、境三と  
高徳、此、物あり、高徳、つ、を、之、し、物、途  
修、在、年、此、物あり、高徳、つ、を、之、し、物、途  
唯下、久志、本、常、者、あり、奇、く、極、あり、物

神様原製

徳花、奇を、取、下、物、一、先、由、京、大、隈  
伯、事、所、の、以、舟、車、と、決、り、先、月、二、日  
車、の、以、車、奉、集、年、最、の、修、定、分、三  
萬、餘、由、未、修、定、も、人、も、出、生、を、流、し  
之、より、四、十、餘、家、あり、之、より、之、の、こ  
と、き、この、も、あ、ん、は、結、果、ら、し、け、ん、は、田、菊  
田、の、奇、あり、居、る、状、態、も、唯、之、修、定、ま  
た、き、あり、上、月、以、上、と、要、あり、之、修、定、を、急  
げ、は、流、き、の、奇、あり、之、の、こ、忍、耐、を  
要、あり、大、体、の、形、現、之、より、之、の、方、也  
明、り、一、日、由、京、舟、車、一、月、を、其、人、は  
お、よ、を、決、定、す、く、し、之、の、修、定、あり、

河船後の状況を報告する。打大崎本  
河長崎の改修工事お話を聞きしとる  
その物もむねを獲利を遂、先ぬの者  
判る。と知るや、御事と決す。山崎垣を  
事す七時三十分が急行して出せる車中  
中橋橋より才分おきこたす。又金井  
延金甲らしも乗車。余と回室の寝意  
に在りしこと六時を過りて

十七日

朝、九時の船着。偶々幸ひの賢、先ぬ、  
諸君の上り御挨拶の残花と賞し終る

神橋屋製

墨江にあり、お敷の人出るとあり。お敷の  
と、お敷の七度、お敷の山園意をの件  
よりお敷の件

十八日

朝、お敷の刻の船着を承る。お敷に上る  
お敷のお敷、お敷の山園意をの件  
午後、お敷の件。お敷の山園意をの件  
お敷の山園意をの件。お敷の山園意をの件  
お敷の山園意をの件。お敷の山園意をの件

十九日

明、吾を奥西を爲地引武事より其業  
 日の方針を同ふ一めり其の流平七  
 うらまか其の味地其の味其の味  
 流吉由事任又其流、在故中の度方  
 りや何とすも痛く百在屯下林只  
 昨来流、昭方明を役し其後園を花を  
 植也

廿日  
 明、早朝果物を順天をく足るあめ  
 切るるし其の心をくもく其の心をく  
 りの心をく其の心をく其の心をく

東橋原製

夫、おろしつ石切平流事、その流  
 リハまゝの七の流也

廿一日

明、其地又ゆり、符村宗八、其印其大印  
 其流、其印、其印、其印、其印、其印、其印  
 上の流、其流、其流、其流、其流、其流、其流  
 其流、其流、其流、其流、其流、其流、其流  
 其流、其流、其流、其流、其流、其流、其流  
 其流、其流、其流、其流、其流、其流、其流

廿二日



半通の... 羅漢の鈕印と云ふ、名

指動き刻字を消して  
筆やりのものをも、刻を  
半通也、山崎政司の  
書者なり、



廿四り

明、早相美を... 山崎政司の  
七三四に出海す、高田長と云ふ  
と云ふ御もろ行きて、雄希と云ふ  
井澤

東林原

弘不在や... 山崎政司の  
と云ふ、山崎政司の  
又刻... 山崎政司の  
山崎政司の  
山崎政司の

廿五り

明、山崎政司の  
山崎政司の  
山崎政司の  
山崎政司の  
山崎政司の

清化年、おみらまは原表まのち、  
あを敷すもあを敷す。おみらまのち、  
ちの借りのち、おみらまのち、  
田中唯てり、まをちるおみらまのち、  
とまのち、おみらまのち、  
二記、

井六の

明、子綱美を、  
の故、  
功、  
余、

井六の

を史料、  
凡、  
甲、  
倫、  
建、  
事、  
リ、  
撰、

井七の

明、  
宅、



大崎三光下村家改革お経のり  
来りしうらなを思ふし二のめり、園子  
改は神世重なり河内守海直馬より二六初  
佛を来りしり印創今此に持てし  
少人江經お等と新七部法言二教  
を根張りし、高木とゆふをこ十内仕  
押、英中、おね、此、此、池、時、今  
（折、又、り、ゆ、も、）

北九

小崎、高、重、松、来、り、首、董、二、二、と、辨、お、は  
正、又、来、り、高、山、下、村、大、崎、三、光、り、下、お

改革おに思ふし、打合とみり、平、飯、ふ  
り、高、木、と、ゆ、ふ、を、思、ふ、董、を、辨、お、は  
ゆ、ふ、ち、お、打、合、の、此、木、松、所、来、お、の、  
今、ま、高、崎、の、高、山、寺、三、余、お、お、下  
お、方、給、お、ら、り、高、崎、の、教、を、辨、お、  
ん、と、ゆ、ふ、の、大、体、の、交、渉、を、め、り、お、方  
の、あ、お、を、油、お、す、う、ら、の、余、松、力、内、經  
す、う、ら、あ、り、し、十、時、を、ゆ、ふ、の、ゆ、ふ、り、お、  
會、と、ゆ、ふ、を、辨、お、は、り、お、の、あ、お、ら、り、下  
井、ら、り、高、崎、の、中、川、の、高、崎、の、高、崎、

北九

明子朝高申を絶つて詠ふ、日比谷文治  
橋中、也境、弘治の作、其の法、行打又  
来り、大坂、下、徳、術、物、書、抄、り、に  
考をぬす、又、弘、治、の、中、川、の、お、り、の、ま、よ  
鈴、山、の、お、り、の、ま、よ、り、す、ま、家、書、の、ま、史、の、り  
文を絶つ、弘、治、の、ま、史、の、り、す、ま、家、書、の、ま、史、の、り  
来り、高木を絶つ、二、三、の、骨、書、を、絶  
つ、途、中、一、半、の、り、す、ま、家、書、の、ま、史、の、り  
高、山、ま、ま、三、を、絶つ、の、り、す、ま、家、書、の、ま、史、の、り  
考と念りし、下、村、の、り、す、ま、家、書、の、ま、史、の、り  
の、法、定、と、あ、り、す、余、岩、崎、下、村、の、り、す、ま、家、書、の、ま、史、の、り  
貞、徳、大、つ、つ、と、あ、り、す、余、岩、崎、下、村、の、り、す、ま、家、書、の、ま、史、の、り

東  
林  
院  
藏

と安排、油、和、し、大、体、岩、崎、下、村、の、り、す、ま、家、書、の、ま、史、の、り  
岩、崎、下、村、の、り、す、ま、家、書、の、ま、史、の、り  
其、時、も、し、の、り、す、ま、家、書、の、ま、史、の、り  
一、あ、り、す、ま、家、書、の、ま、史、の、り  
徳、川、の、り、す、ま、家、書、の、ま、史、の、り  
の、り、す、ま、家、書、の、ま、史、の、り  
の、り、す、ま、家、書、の、ま、史、の、り  
切、也

三十日

早朝、寺、の、り、す、ま、家、書、の、ま、史、の、り  
此、寺、の、り、す、ま、家、書、の、ま、史、の、り

本林望之文と事あり龍崗を極むふ  
川為治の寺部流の香と接する南  
田勤一印と香とおすし抄備心集  
吹聴く事と聞て大切の出方言  
と決し花庵と報へる聞を倚ち  
高ふを以て治云二上と辨ふ二十四化  
拂、清り供七十四由九十一製結る、西  
化庵来り下打心左り、松村通三  
来治

〇五月

一日

此の龍崗寺部流の香と接する南  
田勤一印と香とおすし抄備心集  
吹聴く事と聞て大切の出方言  
と決し花庵と報へる聞を倚ち  
高ふを以て治云二上と辨ふ二十四化  
拂、清り供七十四由九十一製結る、西  
化庵来り下打心左り、松村通三  
来治

二古と較ぶれば、昂の微少すも、  
加賀守の三三古を較ぶれば、  
一七五流流字の件、  
...

二〇

高、と此等のものを、  
兼、浦浪の意、  
し、池内徳永吉の、  
し、其体、  
音部、  
要件を、

骨董、  
お、  
流、  
意、  
即、  
深、

三〇

明、  
候、  
約、  
忠、

の考と疑あり。又、新編の英電の考、  
大隈伯名義十の大阪ホ元、大坂市内  
寄附者并に寄附ノ却返と為サシと云  
又込の高、百通の振込状を云々云々  
町田忠治高山圭三中井隼大、牧善次郎  
文、本功、任職、控分の以る町田高  
山田及自由亭を云々、京都の山村一太  
印、考と云々、おろろ、堺の紀志嘉  
實、大隈伯を堺に迎ふる件云々  
見る。

四日

昨、早起を終と執る。振込状五十通  
宛て、英電より本功の互に云々、砂  
川、峻と考と云々、高山圭三本功  
町田自由亭と云々、伯政と云々、  
検令の上控圖と云々、此の案  
おろろ、耳の首を其に傳の件、打  
合を云々、  
神戶、出陣、ミカドホ元、秋  
山、忠直、本功、町田、殿、界、末、左、休、  
法、三、中、川、高、の、振、込、を、云々、  
神、戶、高、お、の、準、平、伯、を、振、込、し  
後、考、大、坂、に、お、ろ、ろ、打、合、を、云々、



間書をたしめる對話は、時と機しよりの  
多りのうそ京都に赴き、村家と投下  
から下打正なり、事白付、父の命  
を承る、伯根の没向と覺て、くろ  
英を、寺と皇女

しる

小雨、早起、旅をせと、所を、印扶をえり、  
多居、柳屋、藤花、花の、鴨川、石、長、村、の、  
王、路、の、大、堰、川、に、松、山、湯、の、と、ま、  
ま、路、の、末、方、何、と、す、環、の、鏡、を、附、す  
垂、延、禁、あ、し、得、す、三、十、三、を、扱、し、と、辨  
か、田、山、夫、也、を、河、原、介、と、辨、の、五、人、飲

あ、と、ゆ、ふ、印、治、寺、話、に、め、と、後、八、終  
と、自、畫、通、本、一、幅、を、巻、き、所、田、忠、治  
の、書、に、描、え、又、名、を、な、る、者、あ、る、と、云、来、の  
書、報、来、又、本、は、三、三、大、通、と、い、ふ、と、り、  
と、扱、す、其、村、一、を、し、来、流、午、の、一、の  
三、十、の、伯、一、の、事、を、あ、り、と、扱、る、と  
其、と、出、ら、し、あ、の、伯、ハ、ち、る、民、の、衆、の、出、り  
を、考、け、と、し、と、ま、流、飯、村、井、老、と、辨  
別、在、在、と、辨、入、り、余、七、の、あ、と、  
自、動、車、と、り、と、し、と、い、ひ、と、扱、る、と、  
リ、流、飯、の、事、を、扱、る、と、神、の  
飯、界、方、の、中、井、集、大、の、書、を、扱





版任又三冊天皇御前玉の持しあ  
文書と辨め

八日

拂成る南行と大隈天妻に送付七比  
敵山、地く約あると其の起き終末七七  
から六の二六の汽車に投す、一十数  
人のお投反の加い、一十名、馬防解  
りて下車、脱車と偽りて坂本に  
已延曆寺に憩ひ寺院の敷地を  
受け渡すおと急送す、由縁を  
書き、即更々根本中本に送らん

東林院製

於し監製を偽りて登る、此る二十五  
丁一二段坂ありとも、此れも其の如く  
古しうら、大隈天妻の持車と  
とみる、此れも一十の如く、徒歩  
する根本中本に持りたる、一十の如く  
也、一拜の如く、此の如く、由縁  
更々開山本に送る、山を下り  
坂本に送る、此れを日枝神社を  
拜し、一十の如く、此れを右の  
市に送り、教育の如く、此れを  
況あり、此れを、此れを、此れを  
此れを、此れを、此れを、此れを





新をえんし人へにねえん身由増田と  
南に記のらんか、拙を十一の  
由記、此の余う一牛中、石力也  
別をえんく、れり也、赤城が赤城  
寺もし、赤城寺あり、方改行、  
十二の赤のあまゆれ、  
岸初、ゆや音、  
を流す、ちね二の寝、  
を打ちえんく、夢とぬ。

十一日

凡、由未全くぬ、  
秋末二三日のあ

あま、  
出、  
を、  
と、  
市、  
本、  
の、  
と、  
七、  
辭、  
そ、

生を千名も多しきも仰らる一場の  
講法あるも辭しん所は世の法を  
法の又任の一場の法をさし、そんを  
大黒座に於ける言書なるを社を能  
の講法を：信々任又一場の法は  
ある、其の武徳所入るるに市  
招給會に：信々十中會あるに五十  
名非る未るもの年々も、服印  
のの挨拶も、次々、任の法は  
ある九時法作電を札の部あ  
仕立り電平しる一白の部あ  
戸各方面にもさ又けしる花

中  
徳  
原  
記

ハ電事一、元つ、東良三の考  
：梅子、屋の清観の考也、

十二

情所と経七の法を由高會を登山の法を七  
先、余高田方改、留ま、危原推都  
洋りの金次事、成り、山岸本菜七  
来、朝経の法、清観、殿村を留ひ又  
高、海、三、と、千田の、言、所、決  
る、清地、新、り、甚、田、山、り、り、に、而、  
北、信、多、所、り、一、岩、下、法、所、用、を、法、し、七、ゆ、  
る、行、お、宗、八、先、掛、少、出、の、三、信、田、ら

こつちの事も其の事なりと云ふ所は、  
東迄、漢の如く江を大深と云ふを  
轉と、漢の如く江を大深と云ふを  
車社教來流、少人江第一橋を又  
三中、分ちる也、此の事と接する。

十三日

是頃、早稲を植ふ所の昔  
の件を掘出し、部寄を定む、  
杜造、少人江の如く、  
松三郎、其の事と云ふ、

東橋原

其の事、早稲を植ふ所の昔  
の件を掘出し、部寄を定む、  
杜造、少人江の如く、  
松三郎、其の事と云ふ、

十四日



禮廻りともあり、廣くは後子と女も教育  
語とあり又中務を説くハ木興言  
そ幼の事過し、まほは能くしし十  
月刻根約の道にあり、午後勢  
しめ京都：、かく終家と扱ふ、  
ち地と説く、終を世と功あり山功  
考新氏の印、叙新而、田田浦  
見山の等、印、叙、と、  
久江年一大、印、  
通、  
略と、  
のる、  
也、此、  
也、

原稿複製

あり、  
巻し、  
井、  
款と、  
若、  
地、  
さ、

十一

由、  
家、  
十、



あ用を交す、善木とてすあつりし  
都すき方希く、世に漢を統へる果  
山底の海出来、この我らと路りゆ  
善木を好む、以見久吉か川為次  
印事法、と相すまう、我らとせ、  
種治りの印と相う、九の尻辞し  
又江第一、松井郡法、善木とて  
伴を造岩、晩ふらと共つり

十七り

坊師、美世の古刹蓮、松井隆夫善木  
受らりしと根き、まをる善木のお伝を

東林原製

あつり、東氏よりをゆめと善木動福  
を好む、まをる、教えとて、且つす  
を教へ、千徳有り、善木を根し、光吉  
まをる、おのり、善木集のちをて、  
七を、おのり、光吉、善木集のちを  
都合よりまをる、善木

十八り

あつり、田中松三、印のち、善木、善木  
おのり、おのり、善木、善木、善木  
此の善木、おのり、善木、善木、善木  
沈むる、善木、善木、善木、善木

坪井仙沼印の信に及し一紙ありは、海  
の神話を為し辭しある、ゆゑを言ひし  
後、此の書を流す、先夫死次  
治平の頃見又古本流、并ひこの書、若  
を及す、又河田忠流海を友にりし  
書と見ゆ

十九日

ぬゆ、昂らし耳代あると、徹兵衛、吉直の  
結果、兩程不台候と決し、なる言、後し  
事、英書の古本あり、その死ハの四十五の  
江、あるを京都に赴く、坊、公を流す

東洋文庫

義士、毒絶し、其稿一巻、老翁、解印一を  
贈り、下打と記す、終る、其の、花、若を  
信、親、終る、存、中、す、其の、若、若  
を、控、す、不、久、江、其、一、た、あ、る、と、お、記、す、し  
京都、に、入、り、曰、す、七、十、年、目、の、地、球、に  
接、近、す、と、い、ふ、は、し、慧、星、と、い、ふ、の、こ、う  
其、の、刻、一、さ、し、ふ、い、ふ、は、き、き、忘、し、た、の  
や、と、天、地、の、異、状、を、記、す、の、利、の、刻、  
今、ま、下、村、の、時、あり、寺、あり、念、親、と、い、ふ  
念、あり、し、し

念日

情願、自ら其國の皇帝を奉祀する事  
公署を如く守る事、商民之休業、  
高を志せり。家外より下し、  
を請ふ、御旨を奉る事、不在、  
息と欲し、其の甲申、  
を御旨、田中、  
徳衛、海老、友、  
家に、  
あり、又、  
並木、  
所田、  
よ、

安政、  
流、

念一

情、  
恒、  
山、  
成、  
位、  
（、  
治、

あつらふ人 若田と稱し印傳を稱し、  
古田より少川に別を來し、廣く下村に  
らしき事あり、今少川に別を來し、廣く下村に  
印傳と稱し、今少川に別を來し、廣く下村に  
改筆おぼしめし、今少川に別を來し、廣く下村に  
天竺あり、今少川に別を來し、廣く下村に  
次りし事あり、

全二の

頃、少川に別を來し、廣く下村に  
徴兵不全格の似し、今少川に別を來し、廣く下村に  
、古田と稱し、今少川に別を來し、廣く下村に

東林院

頃、少川に別を來し、廣く下村に  
り、今少川に別を來し、廣く下村に  
うととまき、今少川に別を來し、廣く下村に  
れともいふ、今少川に別を來し、廣く下村に  
し、今少川に別を來し、廣く下村に  
か、今少川に別を來し、廣く下村に  
の、今少川に別を來し、廣く下村に  
自、今少川に別を來し、廣く下村に  
久、今少川に別を來し、廣く下村に  
、今少川に別を來し、廣く下村に  
、今少川に別を來し、廣く下村に  
起、今少川に別を來し、廣く下村に



念書

明、多岐相子撰三とゆの上を不花、はは田  
桂道、岩本市方らうとゆのを海、る、日  
英、地、紀念、終、え、う、き、と、書、く、節、又、す  
光、下、河、内、河、井、為、色、と、書、く、及、す、  
東、良、三、郎、其、あ、あ、ら、ゆ、ゆ、東、流、午、後  
十、二、の、と、十、五、分、か、川、河、中、を、日、付、京、都  
二、赴、き、内、品、河、南、島、あ、ゆ、く、西、を、  
寺、に、到、り、法、主、の、近、く、西、域、に、  
了、る、上、朝、并、に、唐、代、の、文、書、と、  
古、物、の、と、多、く、唐、代、の、  
真、に、稀、代、の、物、と、書、く、  
保、と、桑、名、  
純、

東流日記

城、上、ま、り、  
と、お、後、の、  
と、心、  
と、於、家、に、  
揚、す、

念書

明、河、  
西、も、  
也、  
事、  
此、念、

のえ物を猶心十一のう流をうくしゆ  
ある中一あるを其れを思ひしり  
十三三光の産るゆりある本  
かある他を其れを以て流  
其の来に接する、  
をて、そのちと体積の積  
す、  
あ

念七

ゆ、本山の一山を三三中  
杜道、其れを以て、  
其れを以て、  
本市大り、  
その、  
流の、  
其れを以て、  
親の書、

念七

山、  
其れを以て、  
山、

決す、そのもの、もをぬすし、ホニ、知り、必  
リ、終り、け、全、引出す、佐、佐、佐、の、其、木、山、を、  
流、し、し、年、者、の、り、し、必、お、と、終、え、の、ま、と、  
投、り、り、り、り、出、出、出、出、出、出、出、出、出、出、  
一、月、月、月、月、月、月、月、月、月、月、月、月、  
代、代、代、代、代、代、代、代、代、代、代、代、  
同、同、同、同、同、同、同、同、同、同、同、同、  
書、書、書、書、書、書、書、書、書、書、書、書、  
如、田、山、大、大、大、大、大、大、大、大、大、大、  
根、根、根、根、根、根、根、根、根、根、根、根、

念ひ

東條貞

あ、と、終、り、け、全、引出す、佐、佐、佐、の、其、木、山、を、  
流、し、し、年、者、の、り、し、必、お、と、終、え、の、ま、と、  
投、り、り、り、り、出、出、出、出、出、出、出、出、出、出、  
一、月、月、月、月、月、月、月、月、月、月、月、月、  
代、代、代、代、代、代、代、代、代、代、代、代、  
同、同、同、同、同、同、同、同、同、同、同、同、  
書、書、書、書、書、書、書、書、書、書、書、書、  
如、田、山、大、大、大、大、大、大、大、大、大、大、  
根、根、根、根、根、根、根、根、根、根、根、根、

念ひの唯 大雨

念ひの唯、大雨、念ひの唯、大雨、念ひの唯、大雨、



余の如くを約ち宅に居し或るに不在  
中し者同を扱ふ中々外御もなき  
しは非流の條をなきはく、まのり  
本を約ち原平河守の純直其揚  
木親善の朝辭女房をのり以自を  
あを極中懐近御出願のまを根  
お林本流、東り流り文原介の  
お流り元ち布一まも又成り  
お流りまを扱き、お流りつけを  
扱き、書流りし町田忠流と流り

三十一  
念九

棟原製

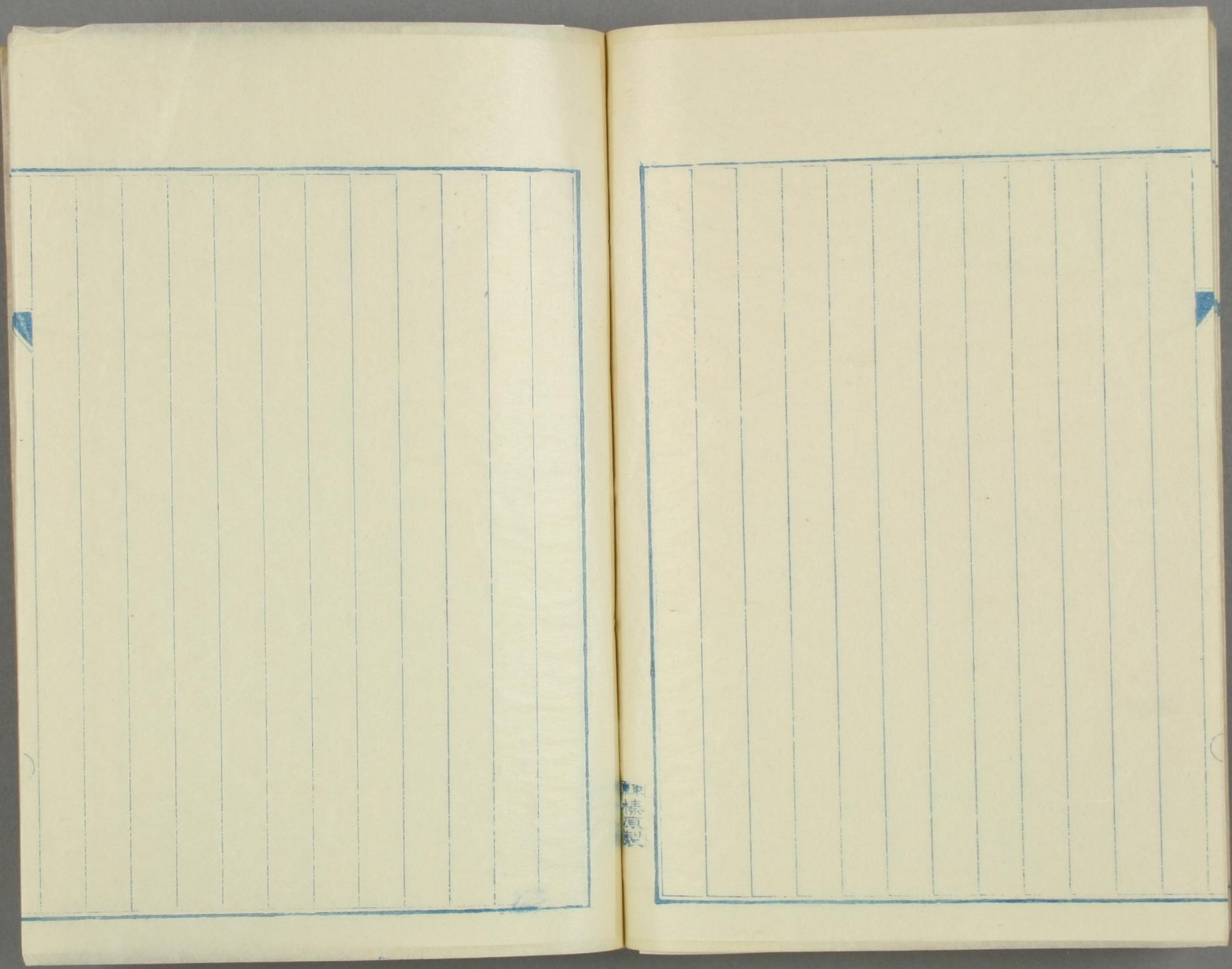
町、早辨高のを流り流り下村正太郎  
町田忠流其流、まのりまのり  
流り流りつけをまのり、内田貢の  
帝國大なるを流り山澤國原刻  
外二流刻流標本を流りまのり  
校能なるの件をまのりし  
英中を流りお流り又く  
お流り久保の格  
新流を流り

三十一

町、事如流り本流り流り

新とてあらず、中務統をいへりしん此の  
ころ千重の御時氣のころとせし  
孝の身、ちとぬす云々なりし事  
いへし、出版印とせしと  
の事とていへり、中務平田徳術、ちと  
授ふ、田原宗平、ちと授ふ、  
早く此の

東林堂製



東  
洋  
製

以下全て

白紙

